

## 常識を疑い、通信制の可能性を拡張。 全日制・通信制の枠を越え 強調から協調、利害から理解の関係に

### 通信制ながら、週5日登校や 5年制など特色あるクラスを用意

やしま 八洲学園は、開校34年を迎える単位制・通信制の高校です。通信制の原点である自学自習で卒業を目指す「通信クラス」のほか、週5日いつでも登校できる「ベーシッククラス」、週1～3日の柔軟な時間割設定が可能な「マイスタイルクラス」、3～5年かけて自分のペースで卒業を目指す「5年制クラス」、そして完全個別対応の「少人数・個別指導クラス」という5つのクラスを用意しています。

「通信制なのに登校？」と驚かれる方もいますが、通信制のあり方は近年、大きく変わっています。遡ること2012年。「高校を退学しただけで高卒資格は取りたい。なるべく登校せず速く安く」という生徒の要望が変化していることを感じていました。本音は、普通の学校生活を楽しみたかったというのです。そこで立ち上げたのが毎日通学可能なクラスでした。すると一気に入学者が増えました。しかも、全日制高校からの編入ではなく、中学校卒業後直接入学する生徒が増えたのです。全日制と競合する形になったとも言えますが両者は別物です。制度設計上、通信制は学校に来るべき時間

は大幅に少ないため、毎日通うクラスでは、通常の授業と違うことに充てられます。本学園の場合、その中心は「基礎学習」（学び直し）です。中学校で学習が止まった生徒は高校のカリキュラムについていくのは困難であるため、躓いた箇所まで立ち返る必要があるからです。この基礎学習に、「体験学習」「キャリア学習」「グループワーク」「ソーシャルスキルトレーニング」を加えた5本柱を「特別学習」とし、スクーリングやリポートなどの高校卒業に必要な「一般学習」と明確に区別しています。

### 文部科学省のガイドラインを遵守し 多くの学校が教育適正化に努める

通信制高校に厳しいご意見があることは理解しています。30年近く前ですが、私が入職した当時の本学園も、生徒数に教員の数が見合っておらず、「これでは担任ではなく、担当ではないか」と異を唱えたのが私や同世代の仲間でした。それを契機に28歳で教頭となり、教育の適正化や労務制度の刷新など学校改革に携わるようになりました。校長になってからは常識に縛られず、5年制クラスや中等部（不登校支援フリースクール）も設置しました。また、特別支援学校教諭免許状

の取得支援や勤務時間の改善など、組織マネジメントにも力を注ぎました。さらに大阪通信制高校グループを立ち上げたほか、全国私立通信制高等学校協会の理事になるなど、通信制の制度を正しく発信する立場にもなりました。2016年には文部科学省によるガイドラインも策定され、多くの学校がこれを遵守し適正化に努めています。

個人的には各年代に応じて、己のため、仲間のため、自校のためと研鑽を積んできたつもりですが、50代の今は「社会のため」という思いで仕事をしています。本学園は「すべての人が学ぶことの喜びと楽しさを知ることのできる場所であること」を教育理念に掲げています。その達成には、自校に偏った「強調」や「利害」ではなく、教育業界全体の「協調」や「理解」が欠かせないと考えています。

はやし・しゅうごう／1975年生まれ。立命館大学理工学部卒業。在学中は奇術サークルに所属し、人に喜んでもらうためには心の距離感やコミュニケーションが大切であることを知り、教育活動に活かす。1998年八洲学園高校に入職。教科は理科。多くの管理職が退職する混乱期に、若手教職員の一人として立ち上がり、再生チームを結成。28歳で教頭になり関東地区責任者に。2013年より現職。学校法人八洲学園理事。全国私立通信制高等学校協会理事。